



# 見守りにつながる! 団地で移動販売

## 地域の特徴

- 人口：2,961人(65歳以上:1,635人)
- 世帯数：2,030世帯
- 高齢化率：55.2%
- 地域特性：集合住宅(市営・県営住宅)が中心

地域のほとんどが市営と県営の集合住宅である城浜団地で形成された校区です。校区の東側に都市高速道路が走り、南側の一部は海に面しています。面積は東区で最も狭く、高齢化率は市内で最も高くなっています。また、建物の老朽化に伴い、住宅の建て替え事業も順次行われています。外国人居住者も多く、多様な文化交流を取り入れたまちづくり活動が行われています。

## 買い物先の環境

校区東側の道路を渡ったところにスーパーマーケットがあります。道路を渡ってすぐの場所ではありますが、行きは徒歩、帰りはタクシーを利用して、荷物を自宅まで運んでもらっている高齢者も見受けられます。また、団地内にあった店舗の閉店を契機に、買い物支援の取り組みを始めましたが、令和2年9月、その跡地に新たにスーパーマーケットが開店しています。しかし、単身高齢者や高齢者のみの世帯が多く、身体状況によっては、近くの買い物先にも行くことが難しい方もいるようです。

## 買い物支援の概要

- 実施主体 城浜校区自治協議会
- 協力事業者 大輝
- 実施曜日・時間 第2・4土曜 11:30~13:00
- 取扱品目 青果、精肉、鮮魚、日用品など
- 実施場所 校区内3カ所
- 感染症対策 消毒液設置、マスク着用、対人距離の確保



移動販売前のミーティング



ささえあいのお買い物



たくさんの方でにぎわっています



のぼりでお知らせ!!

## 取り組みの経緯

### 1 臨時販売所の開設の試行実施

身近な買い物先だった校区内のスーパーマーケットが閉店し、買い物に困ったとの声が聞かれ始めました。そこで、地域は、福岡市に登録している協力事業者の中から、住民が必要としていると思われる生鮮品や日用品等、幅広い商品を取り扱う大輝に買い物支援の協力を依頼しました。取り組みにあたり、まず臨時販売所の開設の試行実施を行い、利用者にアンケートを取って、地域のニーズを確認することにしました。試行実施の会場は、地域にとって身近な施設

である校区内の保育園に相談し、広い駐車場を借りることができました。チラシを配布したり、のぼり旗を立てるなど、地域としても積極的に広報を行った結果、試行実施当日は約150名が利用され、大盛況のうちに終了しました。アンケート結果は9割以上が「再度利用したい」という回答であり、希望する商品は「野菜」「果物」「魚」の順に多く、それらを取り扱う大輝は、地域のニーズにマッチしていることがわかりました。

#### <工夫点>

- 住民が必要としているものを想定して協力事業者を選定し、試行実施時のアンケートにより利用者のニーズを確認した。
- 試行実施の際、住民に身近な場所を会場としたり、チラシの掲示やのぼり旗の掲出など重層的な広報を行うことで、利用者の確保につながった。



試行実施の様子

### 2 臨時販売所の開設の本格実施

定期的な臨時販売所の開設に向けて、会場や頻度などを検討しました。会場については、団地内の閉店した店舗の近くの7区と、道路を渡った東側のスーパーマーケットから遠い16区を特に買い物に困っているエリアと想定し、両エリアとも、住民に身近な場所である集会所前を会場としました。実施頻度は、アンケート結果で回答が多かった週1回とし、1カ所あたり1時間の開催としました。会場レイアウトについては、地域と事業者で現場の下見をして検討し、特に夏場は熱中症対策のために、テントの設置のほか、集会所の軒先に日よけを結びつけるなど、既存の環境も最大限活用して設営することとしました。迎えた本格実施の初日は、2カ所合計で約130名の利用がありましたが、高齢化率が非常に高い城浜校区において、地域ボランティアが週1回2カ所で設営や片付けを行うことは負担が大きいのとなっていました。そこで、持続可能な買い物支援の形を再度検討した結果、週1回1カ

所ずつの開催とし、7区と16区で交互に行うこととしました。



何を買おうかしら!

#### <工夫点>

- 住民に身近な場所である集会所前を会場に選ぶことで、利用者の確保につながった。
- 熱中症対策のため、テントの設置のほか、集会所の軒先などの既存の環境を最大限活用した。
- 地域の負担の大きさを考慮し、開催頻度を柔軟に変更した。

### 3 移動販売車方式への転換

週1回、1カ所ずつの開催としたものの、それでは頻度が低く、十分に住民ニーズに応えられていないことが分かってきました。そこで、地域と事業者で話し合い、これまでの臨時販売所方式から、設営や片付けの負担が小さい移動販売車方式に転換し、より多くの場所で実施できるようにしました。駐車場所は、16区集会所前と、住民に身近で団地の奥にある公民館前の2カ所としました。7区集会所前については、近くに新しくスーパーマーケットが開店したため、駐車場所とはしませんでした。地域・事業者の拘束時間を変えずに、複数の駐車場所を回れるよう、実施時間は1カ所あたり20分程度としました。移動販売車方式に転換した結果、利用者数に大きな変化はなく、かつ地域の負担の軽減を図ることができました。その後、ニーズがあると分かった11区の広場も駐車場所に追加し、売上額が増加して、事業者の採算性の向上にもつながっています。また、地域団体役員が立ち会い、利用者に声をかけ

ることで、安心して利用でき、駐車場所が見守りや交流の場にもなっています。事業者としても、当たりくじイベントを実施するなど、楽しみの要素を加えた工夫を行っており、移動販売がさらに活気を見せています。

#### <工夫点>

- 移動販売車方式へと柔軟に手法を転換し、地域負担の軽減を図った。
- 地域・事業者の拘束時間を変えずに、複数の駐車場所を回れるよう、1カ所あたりの実施時間を短くした。
- 駐車場所を増やすことで、事業者の採算性が向上した。
- 地域団体役員が立ち会い、利用者に声をかけることで、安心して利用でき、見守りや交流にもつながっている。

### 4 その他の工夫

#### ● 中村学園大学の学生との協働

中村学園大学でマーケティングを学ぶ学生がボランティアとして買い物支援に参加し、住民のニーズや事業者の工夫、地域の取組みについて学びました。事業者と連携して、売り場のポップ広告を作成するなど、学生の目線で気づいたことを取組みにつなげる活動が進んでいます。

#### ● 事業所ネットワークとの協働

日常生活圏にある医療・介護・福祉事業所等から構成され、普段から地域と協働している「事業所ネットワーク」の協力を得て、買い物の荷物が重い

方の持ち帰り支援をしました。買い物支援の取組みが、地域と事業者の交流の場にもなっており、今後も連携が続いていきます。



学生の手作りポップ



学生が活躍しています



福祉施設職員が自宅まで米を持って帰ります

#### 移動販売実施マップ



2 16区集会所前



3 11区広場



1 公民館前

#### 城浜校区に学ぶ!移動販売車の取組みのポイント



- 1 実施頻度や負担などを考慮し、どの販売方法が地域に適しているかを検討しましょう。
- 2 実施場所は、地域特性を考慮し、住民にとって分かりやすい場所を選定しましょう。
- 3 チラシの掲示やのぼり旗の掲出など、さまざまな方法で重層的に広報しましょう。
- 4 実施場所の数と売上額は比例しますが、時間や労力とのバランスを考慮して、販売場所の数を決めましょう。

#### 関係者の声

#### 地域でのささえあいを大切にしています!

城浜校区では高齢化が進み、日常生活の買い物が大きな課題になっています。団地内にスーパーが開店しましたが、そこまでも歩いて行くことが難しい方がたくさんいます。足が不自由な方や高齢者の方がカートを押して移動販売に来られると、買い物支援が地域に必要なだと実感します。今後も高齢化は進みますが、事業者と協働し、地域でささえあいながら買い物支援を継続したいと思っています。



左:城浜校区自治協議会会長 井上 裕美子さん  
中央:16区自治会長 末吉 フミヨさん  
右:城浜校区社会福祉協議会会長 竹崎 壽郎さん